

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 11 日現在

機関番号：32402

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2012～2015

課題番号：24251008

研究課題名(和文) 変革期のイスラーム社会における宗教の新たな課題と役割に関する調査・研究

研究課題名(英文) New Challenges and Roles of Religion in the Changing Islamic Society

研究代表者

塩尻 和子 (SHIOJIRI, Kazuko)

東京国際大学・国際交流研究所・教授

研究者番号：40312780

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,700,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは、「変革期のイスラーム社会における宗教の新たな課題と役割に関する調査・研究」の課題のもとで、研究者が各自の専門領域を踏まえて海外調査を実施し、変革期のただなかにある今日のイスラーム社会の実像を明らかにして、宗教の新たな役割と課題を考察するという共同研究であった。15名による研究は、共著『変革期イスラーム社会の宗教と紛争』（塩尻和子編著、明石書店、2016年、410頁）に結実した。また、本科研プロジェクトでは、毎年、海外の高名な研究者を招聘して、研究期間中に公開講演会7回、内部研究会を9回、開催したが、これらの報告や講演内容などは、すべて本科研のホームページに掲載されている。

研究成果の概要(英文)：Under the topic of “New Challenges and Roles of Religion in the Changing Islamic Society”, each of the 15 members practiced the researches abroad on their own academic themes. Using the fruitful information we got, we studied and analyzed the reality in the changing Islamic societies today. Our efforts of collaboration in these four years bore the big fruit; that is the publication of a book of 410 pages, written by 16 authors including 14 collaborators of this academic project. In this work, we wrote the important role of Islam as a civil religion which exists to regulate and to improve the quality of human lives, both as communities and individuals. Though Islam is regarded as one of the central issues of state-religion in major Islamic countries, we could understand another important role as civil-religion on which people depend to live daily life in safety both socially and spiritually. Our academic reports of this project, lectures and workshops are seen in the Webpage.

研究分野：イスラーム思想研究・比較宗教学

キーワード：イスラーム社会 イスラーム理解 宗教と社会 市民宗教 紛争解決 マイノリティ研究 宗教間対話

1. 研究開始当初の背景

(1) 平成 24 年度に本研究を開始した時期は、北アフリカを中心に発生した民衆蜂起が中東各地に波及しながらも一段落した時期であり、チュニジア、エジプト、リビア、イエメンなどを中心として、民主化と言論の自由を求める声の中で新政権が発足しつつあった。そのために、イスラーム社会において研究テーマの「変革期のイスラーム社会」が新しい形で実現しつつあるような期待を感じさせるものがあった。そこで、新政権下で変わりつつある社会状況と宗教的潮流を中心に調査を行なうことにした。また現地状況が許せば、反政府暴動が続いているシリア、バハレーン、イラクなどを中心に、民衆運動の統合原理として働く宗教の動向を調査し、これまで重要視されることが少なかった市民宗教としてのイスラームの日常的な課題を調査・検討しようとした。

しかし、リビア、イエメン、シリア、イラクなど内紛が激化して現地での調査が不可能となってきたこともあり、平成 25 年度以降は、危険情報を確認しながら、上記の国・地域の民衆革命後の社会状況を継続して調査するとともに、他の中東地域、中央アジアの宗教動向を調査することとなった。イスラーム教徒の移民が急増しているヨーロッパ各地やアメリカのイスラームを中心とする宗教動向を調査・検討する計画が動くことになった。

(2) 本研究では、民衆蜂起を経験した社会が内紛や政治的混乱に陥り、軍事的独裁政権に逆戻りする国もある中で、急激に社会の表舞台に躍り出たイスラーム復興運動の激化によって、変動するイスラーム世界の宗教、政治、国際関係などを調査検討し、現実社会の中で何が起きているのか、人々の心理や期待、新政権を支える体制や宗教復興現象などを、現地調査をもとにして研究することになった。民衆蜂起による政権交代を経験した北

アフリカだけでなく、イスラーム教徒は今や、世界中に存在しており、各地で様々な活動を行っている。彼らが他宗教のなかで、対話や共存を進め、相互理解を進展させるために、どのような研究が必要なのか、これらについての講演や執筆活動も展開することにした。

2. 研究の目的

(1) どの宗教も社会との関係性を保ちながら、社会の変動や近代化、グローバル化に対応して多様な様相を示している。とくに、精神性と日常性が不可分の形態をもつイスラームでは、信仰生活は社会生活そのものであることから、歴史の流れのなかで、イスラームは社会の多様性にあわせて変化をしてきた。ここ 2, 30 年間のイスラーム復興運動による政治的宗教運動の激化によって、イスラーム研究では政治的視点が強調され、テロや紛争をテーマとする研究が大勢を占めた。しかし最近の北アフリカを中心とする民衆蜂起においては、政治的イスラームは影を潜め、普通の市民が主役となって社会変革が起こされていた。同時に 2014 年 5 月から顕在化した IS をめぐる議論についても、イスラーム思想研究の立場から検討を重ねていくことにした。そこで、本研究テーマは、これまで十分に研究されなかった「市民宗教」としてのイスラームが担う新たな役割と課題を現地調査に基づいて多角的に研究するという目的を立てた。

(2) この研究目的に基づいて、これまであまり調査が行われなかった中国、台湾、韓国などの調査も行い、イスラーム教徒の移民が急増しているヨーロッパ各地やアメリカの宗教的動向を調査するとともに、アメリカやヨーロッパなどイスラーム地域以外で開催されるセミナーやシンポジウムにも、積極的に参加した。また、年に 2 回、海外および国内から、研究課題に沿った高名な専門家を招聘して、公開講演会を開催し、年度内に 3 回、

本研究プロジェクトに参加している研究者による研究発表会・勉強会を開催することにした。これらによる論文、研究ノート、出張報告などの研究成果と出張報告を毎年度末に出版する東京国際大学国際交流研究所の研究報告書『IIEET 通信』に本科研の研究報告を掲載することとし、同時に研究の詳細な報告を科研のホームページにも掲載し、本研究の成果を広く社会に問うこととした。

3. 研究の方法

本科研プロジェクトは、社会変革期を迎えているイスラーム世界における宗教の課題と役割を検討し、市民宗教としての社会の統合理念となる新たな役割を検討する目標を実施するために、研究代表者および分担者はそれぞれの専門とする国・地域を実地調査するとともに、イスラームだけでなくマイノリティの宗教状況についても調査を実施した。その目的のために、代表者、および分担者はエジプト、ヨルダン、カタール、ドバイ、オマーン、トルコ、アルジェリア、チュニジア、パレスチナ、オランダ、ポルトガル、カナダ、アメリカ、イギリス、フランス、オーストリア、中国、韓国などへ出張した。

現地調査だけでなく、本科研の研究者は、代表者の塩尻をはじめ、多くの分担者が、海外で開催される国際会議やシンポジウムに積極的に参加・招聘された。主なものとしては、塩尻は2013年4月にカタールで開催された第10回ドーハ宗教間対話会議に日本代表として招聘され、また2014年11月にウィーンで開催されたキング・アブドゥッラー・宗教間・文化間対話・国際センター（KAICIID）の対話会議に招聘され最終日に基調講演を行った。同年11月15日からエジプト・カイロへ移動し、カイロ大学文学部日本語学科創立40周年記念シンポジウムに招聘され、日本とイスラームの相互理解について講演を行った。2015年4月には東京で開催された世

界宗教者平和会議で宗教間対話についてアラビア語で発表を行った。研究分担者の池田美佐子は2014年8月にトルコのアンカラで開催された世界中東学会に参加し研究発表をおこなった。四戸潤弥はエジプト・カイロ大学で開催された、同志社大学一神教学際研究センターとカイロ大学東洋学研究センターの共同開催による第3回国際会議に参加し、アラビア語で研究発表を行い、2015年にはトルコのアンタリアで開催されたイスラーム刑法学会に招聘されて講演をおこなった。また2013年にはチュニジアで開催されたTJASSST（チュニジア 日本、文化・科学・技術学術会議）に、塩尻、池田、宮治、岩崎が参加して研究発表を行っている。これらの成果は科研のウェブサイトでも公表している

4. 研究成果

初年度の24年度には2回の公開講演会を開催し、ロンドンからレオ・ベック大学前学長ジョナサン・マゴネット先生を招聘して、東京大学・立教大学との共催で講演会を実施した。第2回目の講演会には二人の若手研究者、リビアのアヘット・ナイリ博士とタジキスタンのズバイドゥロ・ウバイドゥロエフ博士を招へいし、『『アラブの春』のその後』としてリビアと中央アジアのイスラーム社会の変化について講演していただいた。2013年2月の内部研究会にはフランス国立科学研究所のアイダ・ザハル博士を招いて、レバノンの結婚事情について研究会を行った。25年度は1回となったが6月に4人の内外の研究者を招聘して公開シンポジウムを開催した。26年度は9月にはトルコからアドナン・アスラン教授、中国から哈宝玉教授を招聘し、日本宗教学会第73回学術大会からの依頼により、この2名の研究者と四戸・岩崎・塩尻が加わって、特別（英語）パネル「変革期の社会における他宗教理解」（代表・塩尻）のテーマ

で、日本宗教学会の歴史上、初めてとなる英語による発表を行うとともに、上記の2名の研究者を講師として東京・新宿で、公開講演会を実施した。11月にはチュニジアからムニエラ・シャブトール先生を招聘して、チュニジアの民衆蜂起と女性問題のテーマで公開講演会を開催した。27年度はロンドンから前回も招聘したマゴネット博士とカイロからターレク・ハーテム博士(カイロ・アメリカ大学教授)の2名の外国人研究者を招聘し、2回の公開講演会を開催した。これらの講演会および研究会の報告はすべて「科研A変革期のイスラーム」ホームページに公開するとともに、詳細な出張報告、講演会・研究会記録などは、毎年度末に研究拠点の東京国際大学国際交流研究所の紀要『IIET通信』として出版するとともに、同研究所のホームページに掲載した。

イスラーム世界は本科研のプロジェクトを開始した際に不安視していたことが現実の問題となり、「市民宗教としてのイスラーム」の姿が、予想外に変化し始める時期にあたった。しかし、着実にアカデミックで客観的な立場で研究を進めることによって、本科研の立場は揺らぐことはなかった。冷静な判断で本来の基盤的研究を継続することによって、変革期のイスラーム研究に縦横に対応することができることを示した。

また本科研の成果を社会に公開するために、当初の計画通りに、科研分担者14名、研究協力者2名、計16名の論文を編集して、共著『変革期イスラーム社会の宗教と紛争』(塩尻和子編著、明石書店、2016年、410ページ)を出版することができた。本書はそれぞれの研究者が専門的な立場で現在のイスラーム社会を調査・研究した専門書であるだけでなく、一般の読者にも読みやすい文体で編集されており、現在のイスラーム社会を読み解くための重要な参考書として役立つことと確信する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計98件)

- 1、塩尻和子「イスラーム思想から見た過激派組織「イスラーム国」の論理」『比較文明』31巻、2015年、73-86頁、査読無
- 2、塩尻和子「生きられる宗教と宗教学」『東京大学宗教学年報』XXX(30)特別号、71-88頁、2013年、査読無
- 3、四戸潤弥「預言者時代のイスラーム宣教」『日本・東洋研究』アラビア語 6巻、63-71頁、2015年、査読有
- 4、四戸潤弥「中国人陽明左派思想「李卓吾」とイスラーム」『シャリーア研究』第10号、1-35頁、2013年、査読有
- 5、臼杵 陽「イスラームという名のテロリズム」『現代思想』43巻5号、188-193、2015年、査読無
- 6、臼杵 陽「青年期大川周明のスーフィズム研究 論文「神秘的マホメット」をめぐる」『日本女子大学文学部紀要』第63巻、85-112頁、2013年、査読無
- 7、辻上奈美江「サウジアラビア王国」『中東・イスラーム諸国民主化ハンドブック2014』第1巻、141-151頁、2014年、査読無
- 8、田浪亜央江「パレスチナの場所と記憶をめぐる考察」『アジア太平洋研究』第40巻、11-22頁、2016年、査読無
- 9、上山 一「イスラーム銀行利用者による金融商品の利用動機と継続的取引の決定要因」『アジア経済』56-4巻、2-27頁、2015年、査読有
- 10、菊地達也「極端派(グラート)の伝統とアラウィー派」『中東の思想と社会を読み解く』第1巻、109-130頁、2014年、査読無
- 11、池田美佐子「エジプト立憲王政時代の議

会議事録 資料的価値とデータベース化」『明日の東洋学』31号、2-5頁、2014年、査読無

- 12、岩崎真紀「宗教的マイノリティからみた1月25日革命 コプト・キリスト教徒の不安と期待」『現代宗教2010』219-238頁、2012年、査読無
- 13、青柳かおる「生殖補助医療に関するスンナ派イスラームの生命倫理」『比較宗教思想研究』15巻、19-41頁、2015年
- 14、根本和幸「「国連平和維持活動」における自衛原則 UNFにおける武器使用基準の誕生とその射程」『上智法学論集』57巻4号、245-292頁、2014年、査読有
- 15、宮治美江子「サハラの北と南 私の研究経歴から」『アフリカ研究：日本アフリカ学会創立50周年記念特別号』21-29頁、2015年、査読無
- 16、吉田京子「12イマーム・シーア派の夢議論」『宗教史学論叢』第17号、33-55頁、2012年、査読無

[学会発表](計70件)

- 1、塩尻和子「宗教間対話運動と日本のイスラーム理解」(アラビア語)、「世界宗教者平和会議東京大会」(招待講演)、2015年4月9日、グランドハイアット東京
- 2、宮治美江子「マグリブ研究と文化人類学 女性体との出会いを重ねて」、「知の先輩たちに聞く」シリーズ、第10回、2016年2月6日、京都大学イスラーム地域研究センター
- 3、菊地達也「11世紀ドゥルーズ派の集団移動：エジプトからシリアへ」、東京大学中東地域研究センター公開シンポジウム、2016年1月30日、東京大学駒場キャンパス
- 4、Shinohe Junya, “Islamic missionary experience from 1868 to 1945 on teaching of the Crimes in Islam -How to

persuade Japanese people on prohibition of distilled beverage -” Islamic Criminal Law Conference(招待講演)、2015年5月1日、アンタリア、トルコ

- 5、植村清加「フランスのマグレブ系第二世代の学校経験と変化する学校」白山人類学研究会、第8回研究フォーラム、2015年11月7日、東洋大学
- 6、池田美佐子「エジプト公教育の苦悩 「植民地」支配から教育格差まで」日本教育学会第74回大会(招待講演)、2015年8月29日、お茶の水女子大学
- 7、岩崎真紀「コプト・ディアスポラにおけるコースグループの役割」日本宗教学会第74回学術大会、2015年9月5日、創価大学
- 8、Hajime Kamiyama, “Libya after the 2011 Revolution: An Economic and Social Perspective”, International Conference, Libya in Transition: Elites, Civil Society, Factionalism and State Reshaping, 2015年6月24日、École française de Rome (Roma, Italia)
- 9、青柳かおる「イスラームにおける死と看護」、第39回日本死の臨床研究学会年次大会、2015年10月
- 10、Tsujigami, Namie, “Intimate Matrilineal Network as Strategy within Patriarchy”, Middle East Studies Association 2015, 2015年11月23日 Denver USA

[図書](計40件)

- 1、塩尻和子(編著)、板垣雄三(研究協力者)、四戸潤弥、白杵陽、辻上奈美江、菊地達也、吉田京子、青柳かおる、泉淳、植村清加、岩崎真紀、宮治美江子、池田美佐子、阿久津正幸(研究協力者)、田浪亜央江、上山二、明石書店、『変革期イスラーム社会の宗教と紛争』410頁、2016年

- 2、塩尻和子、NHK出版、『イスラームを学ぼう』173頁、2015年
- 3、池田美佐子、山川出版社「世界史リブレット098」『ナセル アラブ民族主義の興隆と終焉』、107頁、2016年
- 4、青柳かおる、山川出版社『ガゼーリー：古典スンナ派思想の完成者』96頁、2014年

ホームページ等

「科研A変革期のイスラーム」
(<http://www.tiu.ac.jp/org/iiet/kaken-a-islam/>)

「東京国際大学国際交流研究所IIET通信」
(http://www.tiu.ac.jp/org/iiet/rifs_t/iiet49.pdf)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塩尻 和子 (SHIOJIRI, Kazuko)
東京国際大学・国際交流研究所・教授
研究者番号：40312780

(2) 研究分担者

吉田 京子 (YOSHIDA, Kyoko)
神田外語大学・外国語学部・講師
研究者番号：00503872

岩崎 真紀 (IWASAKI, Maki)
筑波大学・人文社会科学部研究科(系)・助教
研究者番号：10529845

青柳 かおる (AOYAGI, Kaoru)
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：20422496

植村 清加 (UEMURA, Sayaka)
東京国際大学・商学部・講師
研究者番号：30551668

辻上 奈美江 (TSUJIGAMI, Namie)
東京大学・総合文化研究科・准教授
研究者番号：30584031

臼杵 陽 (USUKI, Akira)
日本女子大学・文学部・教授
研究者番号：40203525

宮治 美江子 (MIYAJI, Mieko)
東京国際大学・国際交流研究所・名誉教授
研究者番号：40239405

菊地 達也 (KIKUCHI, Tatsuya)
東京大学・人文社会系研究科・准教授
研究者番号：40383385

根本 和幸 (NEMOTO, Kazuyuki)
東京国際大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：40453617

泉 淳 (IZUMI, Atsushi)
東京国際大学・経済学部・教授
研究者番号：70337476

田浪 亜央江 (TANAMI, Aoe)
大阪経済法科大学・アジア太平洋研究センター・研究員
研究者番号：70725184

池田 美佐子 (IKEDA, Misako)
名古屋商科大学・コミュニケーション学部・教授、研究者番号：80321024

四戸 潤弥 (SHINOHE, Junya)
同志社大学・神学部・教授
研究者番号：80367961

上山 一 (KAMIYAMA, Hajime)
筑波大学・ビジネス科学研究科(系)・助教
研究者番号：80626226